

ぜんどうや かんちゅうがく しょうかい  
全道夜間中学の紹介

くしろ だいひょう かねむらのぶこ  
釧路「くるかい」 代表 賀根村伸子

みな さんこんにちは。ただいま しょうかい いたしました くしろじしゅやかんちゅうがく だいひょう を  
しております かねむら もう ねが ほんじつ ぜんどうこうりゅうかい こと、  
あ さっぽろえんゆうじゅく しゅうねんきねん かい ことろ いわ  
合せて札幌遠友塾さんの25周年記念という会になっておりますので、心からお祝い  
もう あ さきほどえんどうだいひょう かい はじ ことろざし  
申し上げます。先程遠藤代表がおっしゃってましたとおりの、会の始まりの 志 というも  
の えんえん いま ひきつ こと ふか かんどう まこと すばら こと おも  
のが延々と今も引継がれているという事に深く感動いたしました。誠に素晴らしい事だと思  
います。

くしろ ねんまえ えん ことろ や かんちゅうがく つく ことろ  
釧路は7年前ご縁をいただきまして、釧路にも夜間中学を作ることができました。その折  
じよげん たいへんかんしや とうじ くだうだいひょう みなさま  
に助言をいただき大変感謝しております。その当時の工藤代表、皆様ありがとうございますございま  
し。げんざい きょうだいこう あたみまも ささ くだ ふか かんしや  
現在も兄弟校というか温かく見守って支えて下さっていることに深く感謝しており  
ます。

くしろ へいせい ねん がつ かいこう ことし ねんめ とうしよ めい こ  
釧路「くるかい」は平成21年5月に開校して今年7年目になります。当初50名を超え  
がくしゅうしや い か げんざい めい かよ き  
る学習者さんがおりましたけれども、いろいろ入れ替わりもあり現在20名ほど通って来  
ております。とうしよ かた さいきん ふうふ はい がた いくくみ  
ております。当初からの方もおりますが、最近ではご夫婦で入られた方も幾組かおられまし  
て、なかむつ まな すがた おも ことこ おお  
仲睦まじく学んでおられる姿がほほえましく思われます。国語では、大きなグループ  
めい がくしゅうしや めいはい べんきょう すす  
は6名の学習者さんにスタッフが2、3名入ることがあります。このグループは勉強が進  
んでいまして、しょうせつ よ さくしや お た しょうがい つう かんが かたなど まな もじ なら  
うだけではなく、人間生き方を自らに問う学びも多くしています。また個別のテーブ  
ルでは漢字の書き取りだけだったところが、こえ だ よ がくしゅう はい かた  
声を出して読む学習に入った方もおります。ま  
た おくさま とも ことし かよ はじ かた さいきん しょうかしよ いえ も かえ おく  
奥様と共に今年から通い始めた方は、最近「くるかい」にある教科書を家に持ち帰り、奥  
さんがしょくじ つく あいだ こえ だ よ れんしゅう き つぎつき  
さんが食事を作っている間に声を出して読む練習をしていると聞きました。次々とページ  
か かわっていかのとおも いましたが、おな なんかい れんしゅう じぶん  
は覚える練習にあっている」ということです。また別のテーブルでは、だいがくせい せんぞく ねんばい  
大学生が専属で年配  
かた くだ がくぎょう こ とき やす とき かんが こま  
の方について下さり、学業で来られない時もありますが、休む時のことを考え困らないよ  
う おお おお つく じしゅう かたち お つ  
う多めにプリントを作っておいてくれるので、自習のような形になりますが、落ち着いて  
べんきょう はげ がくせい かんしや くしろきょういくだいがく がくせい  
勉強に励んでくれているので学生さんにも感謝しています。釧路教育大学の学生さんが

開校当初から沢山協力してくれました。それが、立上げの時から事務局長の添田さんが  
転勤で九州に戻ってからは、「学生さんに声掛けしてくれる方がいなくなったら」と心配し  
ていましたけれど、その当時から通ってくれている「くるかい」の学生スタッフが教育大の  
他の仲間達に声を掛けてくれて、「くるかいボランティアサークル」というのを立ち上げて  
くれました。そのサークルで人数がどんどん増え、来られるときに来るといいう形なんです  
が、本当に一生懸命、そして優しい心遣いで学習者さんに関わってくれるので本当に嬉し  
く思っています。次に英語ですが、英語もグループになって勉強しますが学習レベルに違  
いがあります。支援者ひとりから2人に対し学習者さんは5人と多いんです。前はもう少し  
スタッフがいたんですが、転勤とか地方に移ったりして少ないんです。それで教えるのに難  
しい場面もあるんですが、英語の先生はベテランなのでごく話を盛り上げてくれたり、  
いろんな形をかえて進めてくれていますので助かっています。その中で、学習者さんでこ  
れから発表する中新井田さんがいます。中新井田さんは勉強熱心ですが、お仕事で忙し  
いときもあります。毎回必ず来るといいうのは難しいでしょうけれども、来られた時にはス  
タッフの役にまわって関わってくれることもあるので非常に心強い方なんです。

「くるかい」は1部2部という形で、早い時間遅い時間として勉強しております。2部は  
お仕事を持っている方、あるいはちょっと人と関わるのが苦手だという方が来ています。今  
は不登校していた子ども達ですけれども、通信制の高校に通いながら勉強を続けています。  
高校に行っていますので私たちがもうあまり教えることも無いんですけれども、殆ど休ま  
ず通ってくるんです。今まで学び続けていた場所が安心できるということと、分らない所も  
出てくるのでその時に、大学生が気軽に教えてくれるという安心感と。本当に90分という  
長い時間だと思おうので、休憩しようと言うんですけれども。最初は勉強しようという意欲  
はそんなに持てなかったと思おうんですが、今は高校生になって意欲的に勉強して本当に休  
まず机に向かっています。

こうして週1回の「くるかい」という学習会の時間は流れていくんですけれども、ここ  
1年の間に別れというのが続いていて淋しい思いもしています。事務局長であった添田  
さんが離れたり、ベテランの先生なのでこれからスタッフと期待していた先生が離れたりと  
か。そのような事が多くて、私たちスタッフも人数が少なくなって不安というか、心細い

ところもあるのですが、今のところ大学生の皆さんに支えてもらっていますので何とかやりくりして頑張っています。一般の方にも関心はあるのですが、なかなか「支援」というのに躊躇していらっしゃる人もいるのかなと思いますし、すごく想いを持っている人でも仕事が忙しいとなかなか実現できないとも思います。

最近嬉しいことがひとつあったんです。以前は学習者さんとして参加しておられた方が、そんなに長く勉強に来ていた訳ではなかったのですが、考えるところがあって休みがちだったんです。その方がしばらくしてひょっこり顔を出すようになりまして、ちょこちょこ来ている間に「自分が学習者ではなくスタッフの支える側で何か出来ないか」という話になりまして、今はお茶汲みみたいな事ですけどもお手伝いをしてれています。

話が長くなりましたけれども、そういう「くるかい」と私もひよんなことから添田さんと知り合いました携わるようになりましたが、人生は欲張らなければ発見とか楽しみもあるものだという事を多くの学習者さんと関わった中で教えられた気がします。

これからも札幌遠友塾さんの兄弟校として末永くよろしく願いいたします。最後に昨年作った七夕があるんですがそれを見ていただいて終わりにしたいと思います（会場後方パネル展示の七夕作品を前面で披露）。

## 函館遠友塾 野口 誠治

函館の野口です。後の時間もあるでしょうから手短にすませますので、ご辛抱の程をお願いいたします。函館遠友塾の事務部を担当しています野口といいます。函館の抱えている課題を少し話をします。先程も紹介しましたが、7年。一昨年は5年。盛大に祝賀会をやりました。やりましたけれど実は、遠友塾は入ってくる塾生さんあつての遠友塾だと私は考えていますが、困っている事があります。最初の年、困ったことに50人を越えました。「ごめんなさい。これ以上増えたら教室に入れないから、来年に回って」と次の年に回ってもらいました。次の年半数になり、3年目はまたその半分になりました。今年の入学式に両手にならない4人。今の3年、卒業する人Vサイン（2名）です。来年下手すると……。でも、教室は成立しています。なぜか？卒業証書もらっている人そこにいるんだよね。春になったら「あんたこないだ卒業した人でないの？」「うん、もう一回勉強

したいから」って。1年生からやる人もいるし、3年生だけでも1年生やる人もいる。いつの間にか。なので、函館は卒業しても「何処の学年でも入っていい」ってことにしたんです。

「ちょっと勉強したいから」って帰す訳にもいかないから、「仕方ないからいいよ。その代わりに勉強のことで質問とか、変なこと言わないでよ。おとなしく1年生と一緒に入ってきた人と勉強して」って。

一番最初に卒業した人一番元気かも知れない。と言ったら怒られるかもしれない。「何言ったのよ」っていわれても困るけど、来ている人達皆元気です。少なくともはなっているが、じゃあ何もやっていないのか。実はやっています。さっきも代表、新聞ネタになっていましたね。卒業式、入学式、その他もろもろ北海道新聞、地元の函館新聞。一時期ブンヤさんもスタッフでいたこともありましたが、現役の新聞記者がちょこっと手伝って加入したこともあったんですけど、残念ながら忙しくてそれどころではなくなって。それから地元FMイルカというラジオ放送局があります。そこにも生出演したのですが、なかなか塾生の希望者がいないということは、函館はすごく人口減している。毎年3千人いなくなります。と言う事はいなくなるのは多分若手20代くらいの方がボコボコいなくなります。それ以上の人は定住しているのですが、でも人口減は現実としてありますので、そのために一生懸命ラジオに出たり新聞ネタになったりしたんですけど。昨年、一昨年あたりから塾生さんから「このままでは遠友塾もたないね。無くなったら困るね」要するに自分が来たいからだと思うんですけども「何か募集していくチラシなんか無いの?」「あるある」「じゃあそれちょうだい。私配るから友達に」って。それだけなら何だからって、大きなポスター作って貼ったりして。それを見て一人二人引っかかって、(怒られるかな)応募してくれています。だから、全く意識が無い訳ではないんでしょうけれども、なかなか増えないのが現状です。でも、聴講生という形で卒業した人たちが残っていますので、各教室10何人いますので、教える方としてはまあまあやりやすいかな?あいているスタッフが3人も4人も居てどっちが教えているのか分かんなくなっちゃう位。その辺は程ほどにいて助かっています。

うちの代表今西、一番最初に掲げた方針というのは「戦中、戦後に勉強できなかった人おいで」って言ったんですけど、どうも戦中、戦後はずしたほうがいいんじゃないかって

いうスタッフの声こえもありますので、多分たぶんおいおいこれ無なくなるんじゃないかと思おもいます。だから「勉強べんきょうできなかったんだけど今一度いまいちどやりたい人、勉強べんきょうやったけどはるか昔むかしにやったけど忘れわすちゃったからもう一度いちどしたいという人ひと」そんな人たちが来てくれたらいいな。そしてもう少し、函館遠友塾はこだてえんゆうじゅく「ワーこんなにいるの。嬉しいな。皆元気みなげんきだな」ってスタッフも張り切はって毎週通えるような遠友塾えんゆうじゅくになってくれると、続つづいてくれたら嬉しいなと思おもっています。雑ざつぱくですが函館はこだての課題かだいを終わおります。

## せいかつたいけんはっぴょう 生活体験発表

### 「これまでの私」 石岡 愛子 (札幌遠友塾 受講生)

わたし 両親りょうしんと4姉妹しまいの6人家族にんかぞくでした。私わたしは3女じよです。一人遊びひとりあそびの好きな子すでした。  
しょうがっこう へ入学にゅうがくしても友達ともだちは出来できませんでした。無視むしをされていじめられていました。もう  
がっこう もきらいで勉強べんきょうもきらいでした。こんな私わたしでも小学校しょうがっこうは卒業そつぎょうできました。母親ははおやに  
「学校がっこうに行いってくれ」とお願いねがいされて中学校ちゅうがっこうに行くこといにしました。  
にゅうがく5日目いつかめ、先生せんせいから「石岡いしおかさん国語こくごの本ほんを讀よんでください」と言いわれて読よめませんで  
した。胸むねが痛いたくなりました。それからちゅうがっこうは中学校ちゅうがっこうに行くことできませんでした。親おやに反はん抗こう的てき  
になり、今いまで言いうつぱりの仲間なかまに入りはいました。母親ははおやに心しん配ぱいをしんかけてばかりいました。16  
さいのとき菓子店かしてんで働はたらくことしごとになりました。仕事しごとはパック詰づめでした。みんな親しん切せつにしてく  
れて友達ともだちも出来できました。楽たのしく仕事しごとをしていました。2年ねんでやめはることはになりました。母はの  
みせ 店はたらくこときになりました。そこだんせいに来てしいた男性あと知さいり合けっい23歳こんで結ふ婚たりして2人こ子ども  
がおつと 夫ぼは暴うり力よく夫おつと でした。私わたしを頭あたまからおさなえつなけて何なにも出来できませんで  
した。そんな夫おつと でした。40年ねん一いっ緒しょに暮くらしてげんかいがき来ありました。姉あねが札幌さっぽろに住すんでいま  
したので、そこいに行くことしにました。いろいひとろな人ひとに世せ話わになりり離り婚こんがいえ  
借かりて一人ひとりきりになると急きゅうに不ふ安あんになり、これせいかつからの生活つづをどつづのようつづに続つづけていいけばよい  
か眠ねむれない日ひがつづきつづました。そんな私わたしを見みて、姉あねが「仕事しごとをさいがいそう」と言いってくれまい  
した。ハローワークいに行いき、履り歴れ書しよの書かき方かたを姉あねに教おえてかもらかい書しきました。仕事しごとは北ほく大だいの清せい掃そう  
に決きまりました。

自分<sup>じぶん</sup>は字<sup>じ</sup>も書<sup>か</sup>けない、読<sup>よ</sup>むことも出<sup>で</sup>来<sup>き</sup>ないことをお世<sup>せ</sup>話<sup>わ</sup>にな<sup>ひ</sup>った人<sup>ひと</sup>に打<sup>う</sup>ち明<sup>あ</sup>けました。そ  
の<sup>ひと</sup>人<sup>くどうあけみ</sup>が工<sup>しょうかい</sup>藤<sup>えんゆうじゅく</sup>朱<sup>はい</sup>美<sup>まな</sup>さん<sup>たの</sup>を紹<sup>おし</sup>介<sup>え</sup>して<sup>えんゆうじゅく</sup>く<sup>れ</sup>て遠<sup>えんゆうじゅく</sup>友<sup>す</sup>塾<sup>す</sup>へ入<sup>はい</sup>るこ<sup>まな</sup>とに<sup>たの</sup>なり<sup>おし</sup>ました。学<sup>まな</sup>ぶ<sup>たの</sup>楽<sup>おし</sup>しさを<sup>おし</sup>教<sup>え</sup>え  
て<sup>おし</sup>く<sup>れ</sup>ま<sup>せ</sup>した。先<sup>せんせい</sup>生<sup>せい</sup>と<sup>せんせい</sup>ス<sup>せんせい</sup>タ<sup>せんせい</sup>フ<sup>せんせい</sup>、じ<sup>せんせい</sup>っ<sup>せんせい</sup>く<sup>せんせい</sup>り<sup>せんせい</sup>ク<sup>せんせい</sup>ラ<sup>せんせい</sup>ス<sup>せんせい</sup>の<sup>せんせい</sup>皆<sup>みな</sup>さ<sup>みな</sup>ん<sup>みな</sup>の<sup>みな</sup>お<sup>みな</sup>陰<sup>かげ</sup>で<sup>かげ</sup>す。勉<sup>べんきょう</sup>強<sup>きょう</sup>が<sup>す</sup>好<sup>す</sup>き<sup>す</sup>に<sup>す</sup>な<sup>す</sup>り  
ま<sup>す</sup>した。遠<sup>えんゆうじゅく</sup>友<sup>す</sup>塾<sup>す</sup>も<sup>す</sup>好<sup>す</sup>き<sup>す</sup>に<sup>す</sup>な<sup>す</sup>り<sup>す</sup>ま<sup>す</sup>した。平<sup>へいせい</sup>成<sup>せい</sup>2<sup>ねん</sup>4<sup>い</sup>年<sup>で</sup>に<sup>あたら</sup>家<sup>い</sup>を<sup>い</sup>出<sup>い</sup>て<sup>い</sup>新<sup>い</sup>しい<sup>い</sup>一<sup>い</sup>歩<sup>い</sup>を<sup>い</sup>踏<sup>い</sup>み<sup>い</sup>出<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>した。  
こ<sup>おも</sup>れ<sup>おも</sup>から<sup>おも</sup>は<sup>おも</sup>楽<sup>おも</sup>しく<sup>おも</sup>明<sup>おも</sup>る<sup>おも</sup>く<sup>おも</sup>笑<sup>おも</sup>顔<sup>おも</sup>で<sup>おも</sup>暮<sup>おも</sup>ら<sup>おも</sup>し<sup>おも</sup>たい<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>っ<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。あ<sup>おも</sup>り<sup>おも</sup>が<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>う<sup>おも</sup>ご<sup>おも</sup>ざ<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す。

かめざわ しずか さつぼろえんゆうじゅくじゅこうせい  
亀澤 定 (札幌遠友塾 受講生)

皆<sup>みな</sup>さん、こ<sup>みな</sup>ん<sup>みな</sup>に<sup>みな</sup>ち<sup>みな</sup>は。札<sup>さつぼろえんゆうじゅく</sup>幌<sup>ねんせい</sup>遠<sup>かめざわ</sup>友<sup>もう</sup>塾<sup>もう</sup>3<sup>わたし</sup>年<sup>ひと</sup>生<sup>まえ</sup>の<sup>はな</sup>亀<sup>こと</sup>澤<sup>こと</sup>と<sup>こと</sup>申<sup>こと</sup>し<sup>こと</sup>ま<sup>こと</sup>す。私<sup>わたし</sup>は<sup>ひと</sup>人<sup>まえ</sup>の<sup>はな</sup>前<sup>こと</sup>で<sup>こと</sup>話<sup>こと</sup>し<sup>こと</sup>た<sup>こと</sup>事<sup>こと</sup>が<sup>こと</sup>ご<sup>こと</sup>ざ<sup>こと</sup>い<sup>こと</sup>ま<sup>こと</sup>せ<sup>こと</sup>ん<sup>こと</sup>の<sup>こと</sup>で、皆<sup>みな</sup>様<sup>みな</sup>に<sup>みな</sup>分<sup>わ</sup>かり<sup>わ</sup>や<sup>わ</sup>す<sup>わ</sup>く<sup>わ</sup>聞<sup>き</sup>こ<sup>き</sup>え<sup>き</sup>な<sup>き</sup>い<sup>き</sup>か<sup>き</sup>も<sup>き</sup>知<sup>し</sup>れ<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>せ<sup>し</sup>ん<sup>し</sup>が<sup>し</sup>、よ<sup>ねが</sup>ろ<sup>ねが</sup>しく<sup>ねが</sup>お<sup>ねが</sup>願<sup>ねが</sup>い<sup>ねが</sup>し<sup>ねが</sup>ま<sup>ねが</sup>す。

ま<sup>わたし</sup>ず<sup>わたし</sup>は<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>の<sup>わたし</sup>故<sup>ふるさと</sup>郷<sup>つしま</sup>、対<sup>しょうかい</sup>馬<sup>つしま</sup>を<sup>ながさきけん</sup>ち<sup>つしま</sup>ょ<sup>つしま</sup>つ<sup>つしま</sup>と<sup>つしま</sup>紹<sup>ながさきけん</sup>介<sup>つしま</sup>し<sup>つしま</sup>ま<sup>つしま</sup>す。対<sup>つしま</sup>馬<sup>つしま</sup>は<sup>つしま</sup>長<sup>ながさきけん</sup>崎<sup>つしま</sup>県<sup>つしま</sup>に<sup>つしま</sup>な<sup>つしま</sup>り<sup>つしま</sup>ま<sup>つしま</sup>す。こ<sup>つしま</sup>の<sup>つしま</sup>対<sup>つしま</sup>馬<sup>つしま</sup>の<sup>つしま</sup>  
5<sup>さき</sup>0<sup>かんこく</sup>キ<sup>やまやま</sup>ロ<sup>は</sup>先<sup>は</sup>の<sup>び</sup>韓<sup>み</sup>国<sup>み</sup>の<sup>み</sup>山<sup>み</sup>々<sup>み</sup>を<sup>み</sup>晴<sup>み</sup>れ<sup>み</sup>の<sup>み</sup>日<sup>み</sup>は<sup>み</sup>か<sup>み</sup>す<sup>み</sup>か<sup>み</sup>に<sup>み</sup>見<sup>み</sup>る<sup>み</sup>こ<sup>み</sup>と<sup>み</sup>が<sup>み</sup>出<sup>み</sup>来<sup>み</sup>ま<sup>み</sup>す。つ<sup>み</sup>ま<sup>み</sup>り<sup>み</sup>国<sup>み</sup>境<sup>み</sup>の<sup>み</sup>島<sup>み</sup>で<sup>み</sup>す。  
隣<sup>となり</sup>の<sup>い</sup>壱<sup>あ</sup>岐<sup>い</sup>と<sup>い</sup>合<sup>つしまこくていこうえん</sup>わ<sup>つしま</sup>せ<sup>つしま</sup>て<sup>つしま</sup>壱<sup>つしま</sup>岐<sup>つしま</sup>・対<sup>つしま</sup>馬<sup>つしま</sup>国<sup>つしま</sup>定<sup>つしま</sup>公<sup>つしま</sup>園<sup>つしま</sup>に<sup>つしま</sup>な<sup>つしま</sup>っ<sup>つしま</sup>て<sup>つしま</sup>い<sup>つしま</sup>ま<sup>つしま</sup>す。こ<sup>つしま</sup>の<sup>つしま</sup>島<sup>つしま</sup>は<sup>つしま</sup>、四<sup>つしま</sup>国<sup>つしま</sup>と<sup>つしま</sup>か<sup>つしま</sup>九<sup>つしま</sup>州<sup>つしま</sup>の<sup>つしま</sup>よ<sup>つしま</sup>う<sup>つしま</sup>な<sup>つしま</sup>広<sup>つしま</sup>さ<sup>つしま</sup>こ<sup>つしま</sup>そ<sup>つしま</sup>あ<sup>つしま</sup>り<sup>つしま</sup>ま<sup>つしま</sup>せ<sup>つしま</sup>ん<sup>つしま</sup>が<sup>つしま</sup>、佐<sup>さ</sup>渡<sup>か</sup>と<sup>お</sup>同<sup>な</sup>じ<sup>な</sup>く<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>な</sup>の<sup>な</sup>広<sup>な</sup>さ<sup>な</sup>が<sup>な</sup>あ<sup>な</sup>り<sup>な</sup>ま<sup>な</sup>す。巖<sup>い</sup>原<sup>は</sup>が<sup>な</sup>そ<sup>な</sup>の<sup>な</sup>中<sup>な</sup>で<sup>な</sup>わ<sup>な</sup>ず<sup>な</sup>か<sup>な</sup>に<sup>な</sup>  
小<sup>ち</sup>さ<sup>へ</sup>な<sup>い</sup>平<sup>へ</sup>地<sup>い</sup>で、こ<sup>つしま</sup>こ<sup>つしま</sup>が<sup>つしま</sup>対<sup>つしま</sup>馬<sup>つしま</sup>の<sup>つしま</sup>政<sup>せい</sup>治<sup>じ</sup>・文<sup>ぶん</sup>化<sup>か</sup>・教<sup>き</sup>育<sup>いく</sup>の<sup>ちゅうしん</sup>中<sup>ちゅうしん</sup>心<sup>ちゅうしん</sup>で<sup>ちゅうしん</sup>す。

私<sup>わたし</sup>の<sup>しゅうしよく</sup>就<sup>たいけん</sup>職<sup>はな</sup>・体<sup>ちゅうがっこうそつぎょうご</sup>験<sup>じもと</sup>につ<sup>かいしゃ</sup>い<sup>つと</sup>て<sup>はいたつ</sup>お<sup>はいたつ</sup>話<sup>はいたつ</sup>し<sup>はいたつ</sup>ま<sup>はいたつ</sup>す。中<sup>じもと</sup>学<sup>かいしゃ</sup>校<sup>つと</sup>卒<sup>はいたつ</sup>業<sup>はいたつ</sup>後<sup>はいたつ</sup>す<sup>はいたつ</sup>ぐ<sup>はいたつ</sup>に<sup>はいたつ</sup>地<sup>はいたつ</sup>元<sup>はいたつ</sup>の<sup>はいたつ</sup>会<sup>はいたつ</sup>社<sup>はいたつ</sup>に<sup>はいたつ</sup>勤<sup>はいたつ</sup>め<sup>はいたつ</sup>、配<sup>はいたつ</sup>達<sup>はいたつ</sup>の<sup>はいたつ</sup>  
仕<sup>しごと</sup>事<sup>しごと</sup>を<sup>しごと</sup>し<sup>しごと</sup>て<sup>しごと</sup>い<sup>しごと</sup>ま<sup>しごと</sup>し<sup>しごと</sup>た<sup>しごと</sup>が<sup>しごと</sup>2<sup>しごと</sup>年<sup>しごと</sup>で<sup>しごと</sup>退<sup>しごと</sup>社<sup>しごと</sup>。そ<sup>しごと</sup>の<sup>しごと</sup>訳<sup>しごと</sup>は<sup>しごと</sup>、北<sup>ほく</sup>海<sup>きやう</sup>道<sup>じやう</sup>に<sup>うま</sup>行<sup>うま</sup>っ<sup>うま</sup>て<sup>うま</sup>北<sup>ほく</sup>海<sup>きやう</sup>道<sup>じやう</sup>に<sup>うま</sup>行<sup>うま</sup>っ<sup>うま</sup>て<sup>うま</sup>牧<sup>むく</sup>場<sup>ひやう</sup>で<sup>な</sup>の<sup>な</sup>仕<sup>な</sup>事<sup>な</sup>が<sup>な</sup>し<sup>な</sup>た<sup>な</sup>く<sup>な</sup>、馬<sup>ま</sup>や<sup>な</sup>  
牛<sup>うし</sup>を<sup>そだ</sup>育<sup>ゆめ</sup>て<sup>お</sup>い<sup>お</sup>く<sup>お</sup>の<sup>お</sup>が<sup>お</sup>夢<sup>ほんたい</sup>で<sup>かな</sup>した。そ<sup>ざんねん</sup>れ<sup>ざんねん</sup>が<sup>ざんねん</sup>親<sup>ざんねん</sup>の<sup>ざんねん</sup>反<sup>ざんねん</sup>対<sup>ざんねん</sup>で<sup>ざんねん</sup>叶<sup>ざんねん</sup>え<sup>ざんねん</sup>ら<sup>ざんねん</sup>れ<sup>ざんねん</sup>ず<sup>ざんねん</sup>、残<sup>もく</sup>念<sup>ひやう</sup>で<sup>な</sup>した。目<sup>な</sup>標<sup>な</sup>が<sup>な</sup>無<sup>な</sup>く<sup>な</sup>な<sup>な</sup>り<sup>な</sup>、私<sup>わたし</sup>に<sup>あた</sup>で<sup>あた</sup>き<sup>あた</sup>る<sup>あた</sup>仕<sup>あた</sup>事<sup>あた</sup>は<sup>あた</sup>何<sup>あた</sup>か<sup>あた</sup>と<sup>あた</sup>考<sup>あた</sup>え<sup>あた</sup>て<sup>あた</sup>職<sup>あた</sup>安<sup>あた</sup>に<sup>あた</sup>行<sup>あた</sup>き<sup>あた</sup>仕<sup>あた</sup>事<sup>あた</sup>が<sup>あた</sup>決<sup>あた</sup>ま<sup>あた</sup>る<sup>あた</sup>の<sup>あた</sup>で<sup>あた</sup>す<sup>あた</sup>が<sup>あた</sup>、私<sup>わたし</sup>の<sup>あた</sup>頭<sup>あた</sup>で<sup>あた</sup>は<sup>あた</sup>  
就<sup>しゅうしよくぐち</sup>職<sup>かぎ</sup>口<sup>せま</sup>も<sup>もん</sup>限<sup>しごと</sup>ら<sup>しごと</sup>れ<sup>しごと</sup>て<sup>しごと</sup>狭<sup>てん</sup>き<sup>ところ</sup>門<sup>ふく</sup>で<sup>お</sup>した。仕<sup>くる</sup>事<sup>め</sup>は<sup>め</sup>ク<sup>め</sup>リ<sup>め</sup>ー<sup>め</sup>ン<sup>め</sup>グ<sup>め</sup>店<sup>め</sup>、所<sup>め</sup>は<sup>め</sup>福<sup>め</sup>岡<sup>め</sup>県<sup>め</sup>の<sup>め</sup>久<sup>め</sup>留<sup>め</sup>米<sup>め</sup>市<sup>め</sup>篠<sup>め</sup>山<sup>め</sup>町<sup>め</sup>  
の<sup>め</sup>海<sup>め</sup>運<sup>め</sup>舎<sup>め</sup>ク<sup>め</sup>リ<sup>め</sup>ー<sup>め</sup>ン<sup>め</sup>グ<sup>め</sup>店<sup>め</sup>で<sup>め</sup>す。見<sup>め</sup>習<sup>め</sup>い<sup>め</sup>と<sup>め</sup>して<sup>め</sup>就<sup>め</sup>職<sup>め</sup>。巖<sup>め</sup>原<sup>め</sup>か<sup>め</sup>ら<sup>め</sup>朝<sup>め</sup>8<sup>め</sup>時<sup>め</sup>に<sup>め</sup>周<sup>め</sup>航<sup>め</sup>して<sup>め</sup>博<sup>め</sup>多<sup>め</sup>ま<sup>め</sup>で<sup>め</sup>  
8<sup>め</sup>時<sup>め</sup>間<sup>め</sup>、そ<sup>め</sup>れ<sup>め</sup>か<sup>め</sup>ら<sup>め</sup>久<sup>め</sup>留<sup>め</sup>米<sup>め</sup>ま<sup>め</sup>で<sup>め</sup>2<sup>め</sup>時<sup>め</sup>間<sup>め</sup>。そ<sup>め</sup>こ<sup>め</sup>に<sup>め</sup>着<sup>め</sup>い<sup>め</sup>た<sup>め</sup>の<sup>め</sup>は<sup>め</sup>夜<sup>め</sup>の<sup>め</sup>7<sup>め</sup>時<sup>め</sup>で<sup>め</sup>す。今<sup>め</sup>は<sup>め</sup>巖<sup>め</sup>原<sup>め</sup>か<sup>め</sup>ら<sup>め</sup>博<sup>め</sup>多<sup>め</sup>ま<sup>め</sup>で<sup>め</sup>  
で<sup>め</sup>、フ<sup>め</sup>ェ<sup>め</sup>リ<sup>め</sup>ー<sup>め</sup>で<sup>め</sup>4<sup>め</sup>時<sup>め</sup>間<sup>め</sup>で<sup>め</sup>着<sup>め</sup>く<sup>め</sup>そ<sup>め</sup>う<sup>め</sup>で<sup>め</sup>す。そ<sup>め</sup>の<sup>め</sup>日<sup>め</sup>の<sup>め</sup>夜<sup>め</sup>に<sup>め</sup>仕<sup>め</sup>事<sup>め</sup>の<sup>め</sup>内<sup>め</sup>情<sup>め</sup>を<sup>め</sup>聞<sup>め</sup>き<sup>め</sup>そ<sup>め</sup>の<sup>め</sup>時<sup>め</sup>に<sup>め</sup>、偉<sup>め</sup>い<sup>め</sup>と<sup>め</sup>  
こ<sup>め</sup>に<sup>め</sup>来<sup>め</sup>た<sup>め</sup>と思<sup>め</sup>い<sup>め</sup>ま<sup>め</sup>した。内<sup>め</sup>容<sup>め</sup>は<sup>め</sup>、朝<sup>め</sup>6<sup>め</sup>時<sup>め</sup>半<sup>め</sup>起<sup>め</sup>床<sup>め</sup>。そ<sup>め</sup>の<sup>め</sup>一<sup>め</sup>、外<sup>め</sup>の<sup>め</sup>掃<sup>め</sup>き<sup>め</sup>掃<sup>め</sup>除<sup>め</sup>。そ<sup>め</sup>の<sup>め</sup>二<sup>め</sup>、庭<sup>め</sup>の<sup>め</sup>掃<sup>め</sup>除<sup>め</sup>。  
お<sup>お</sup>終<sup>お</sup>わ<sup>お</sup>ると<sup>お</sup>食<sup>お</sup>事<sup>お</sup>。休<sup>お</sup>み<sup>お</sup>は<sup>お</sup>月<sup>お</sup>2<sup>お</sup>回<sup>お</sup>。1<sup>お</sup>日<sup>お</sup>と<sup>お</sup>1<sup>お</sup>5<sup>お</sup>日<sup>お</sup>定<sup>お</sup>休<sup>お</sup>。但<sup>お</sup>し<sup>お</sup>見<sup>お</sup>習<sup>お</sup>い<sup>お</sup>は<sup>お</sup>ゆ<sup>お</sup>う<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>の<sup>お</sup>洗<sup>お</sup>濯<sup>お</sup>物<sup>お</sup>を<sup>お</sup>朝<sup>お</sup>干<sup>お</sup>し<sup>お</sup>  
て<sup>お</sup>、夕<sup>お</sup>方<sup>お</sup>乾<sup>お</sup>く<sup>お</sup>と<sup>お</sup>取<sup>お</sup>り<sup>お</sup>込<sup>お</sup>み<sup>お</sup>、明<sup>お</sup>日<sup>お</sup>の<sup>お</sup>仕<sup>お</sup>事<sup>お</sup>の<sup>お</sup>段<sup>お</sup>取<sup>お</sup>り<sup>お</sup>。そ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>は<sup>お</sup>、Y<sup>お</sup>シ<sup>お</sup>ャ<sup>お</sup>ツ<sup>お</sup>、ブ<sup>お</sup>ラ<sup>お</sup>ウ<sup>お</sup>ス<sup>お</sup>、シ<sup>お</sup>ー<sup>お</sup>ツ<sup>お</sup>な<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>、  
み<sup>お</sup>ず<sup>お</sup>水<sup>お</sup>で<sup>お</sup>竿<sup>お</sup>を<sup>お</sup>湿<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>す。そ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>か<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>丸<sup>お</sup>め<sup>お</sup>て<sup>お</sup>布<sup>お</sup>で<sup>お</sup>包<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>で<sup>お</sup>箆<sup>お</sup>に<sup>お</sup>並<sup>お</sup>べ<sup>お</sup>、足<sup>お</sup>で<sup>お</sup>踏<sup>お</sup>み<sup>お</sup>、そ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>で<sup>お</sup>休<sup>お</sup>み<sup>お</sup>の<sup>お</sup>一<sup>お</sup>日<sup>お</sup>が<sup>お</sup>終<sup>お</sup>わ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>。  
こ<sup>お</sup>の<sup>お</sup>店<sup>お</sup>に<sup>お</sup>は<sup>お</sup>職<sup>お</sup>人<sup>お</sup>さん<sup>お</sup>が<sup>お</sup>2<sup>お</sup>人<sup>お</sup>、2<sup>お</sup>年<sup>お</sup>目<sup>お</sup>の<sup>お</sup>地<sup>お</sup>元<sup>お</sup>の<sup>お</sup>先<sup>お</sup>輩<sup>お</sup>と<sup>お</sup>合<sup>お</sup>計<sup>お</sup>4<sup>お</sup>人<sup>お</sup>で<sup>お</sup>、休<sup>お</sup>み<sup>お</sup>の<sup>お</sup>日<sup>お</sup>に<sup>お</sup>な<sup>お</sup>ると<sup>お</sup>、

職人の2人は朝早く出掛け、先輩は休みの前の晩に実家に帰るので、朝の食事は私1人。

昨夜の残り物で味噌汁と漬物だけそのまま置いてある。私の家には犬と猫と飼っていたが、

食事を与える時には声を掛けていた。見習いとはいえ、さびしい思いをした。休みの日には

ここで食事をする事はなかった。その時の月給500円を月2回の食事代4回分に分けて

過ごしていました。辛い思い出です。休みの日は皆、楽しいそうです。私は楽しくなく頭

痛いぐらい。天気の日も筑後川の土手で寝ころびながら故郷思い、雨の日も国鉄の駅の中で、

一食代牛乳1本10円、パン1ケ10円、計20円で休みの日は過ごしていました。

余談です。私にはこの店はない。就職して4ヶ月目の8月に大雨が降り筑後川が

氾濫、久留米の町は水浸し。我が家も家の軒下まで水に浸かり、家に障害物が当たると家が

小船の如く揺れて大変でした。私も被害を受け、箆笥に入れていた服も流され大事なもの

はなくなる。そんなこともありました。

次に遠友塾への思いについてお話します。私が長い間探し求めていた学校が、基礎から

学びの原点、それが自主夜間中学でした。私は中学校は卒業はしていますが、勉強は

殆んどしておりません。後で述べますが、それからというもの勉強は殆んどせず、遊びに

夢中でした。夏は海へと、秋は山へと。それは辛いことを忘れる為にでした。

私が小学校4年生の夏休み前頃父親が亡くなり、それが原因だと思えます。それで文盲

の私になりました。日曜日は海が見える山に登り、水平線に太陽が沈むのを見届けて家路に。

これが私の履歴書です。

何時も頭のどこかで基礎から勉強したい、習いたいと思っていた所にふとした事で厚

別区民センターで遠友塾自主夜間中学を知り、生徒募集のパンフレットを見て、私が2

0年間探し求めていた学校と思えました。ようやく夢に見た学校、学びの原点、札幌遠友塾、

万歳。これからは肝に銘じ、一生懸命教えるを大事にしていきます。感謝感謝です。

先生、スタッフの皆様のおかげで1年より2年目と、振り返って見ると自分ながら進歩してき

ました。目標に向かって頑張ります。関係者の皆様、私が大変だと思ったのは或る日、

寒い寒い冬の雪がちらつく夜、下の教室の入り口がまだ開いてなく何時までも待って居ら

れる姿を見た時です。私たちは改めて感謝を述べます。先生、スタッフの皆様のご気兼ね

の要らない、独立した学校が一日も早く、公立の夜間中学が実現することをお祈りします。

まつむら なおこ さつぽろえんゆうじゅくじゅこうせい  
松村 直子 (札幌遠友塾 受講生)

わたし えんゆうじゅく し ねんまえ くやくしよ しら ご ねんま  
私が遠友塾を知ったのは、6年前のテレビです。区役所で調べてもらい、その後1年待  
ちでした。がっこう い べんきょう で き とき けんがく し  
学校に行けず、勉強が出来なかった。そんな時に見学があることを知りさっそ  
く けんがく げんき がんぼ すがた いんしやうてき やかんちゆうがく  
く見学させてもらい、みんなの元気で頑張る姿はとても印象的でした。夜間中学がある  
はなし ほんとう うれ おも まち ま おも びやういん ぎんこう りれきしよ だ  
話は本当に嬉しい思いで、待ちに待った思いでした。病院とか銀行など履歴書を出すのに  
たいへん おも とき しゅじん おうえん  
大変な思いがあり、ある時は主人に応援をもらうこともありました。

なかしべつ かつたり き しゅうせん とき わたし さい しやうがっこう  
中標津をはなれ屈足に来て終戦をむかえたのです。その時の私は10歳でした。小学校  
も行ったりやす 休んだりでした。しやうわ ねん けっこん さつぽろ せいかつ はじ がっこう  
も 昭 和 3 4 年 に 結 婚 し て 札 幌 で の 生 活 が 始 ま り ま し た 。 学 校  
きゆうしよく しごと がいしやせいそうなど はたら こ どもが う 産まれ おお  
給食の仕事とか、ビール会社清掃等をやり 働きました。子どもが産まれ大きくなってく  
るとなん やかに やと聞かれることが多くなり、困ることがしばしばでした。よみ か  
にも出来ませんが いま じかん あ やかんちゆうがく あし はこ ひと あたた  
今では時間があるので、夜間中学にと足を運ぶようになり、人の温  
かさ けいゆうき もらひ。また かんじ いちじ わか とき き だ おも  
漢字など一字でも分った時はやる気を出したのですが思うよう  
になりません。

くしろ ぜんどうたいかい さんか とまど しゅうがくりょこう きぶん  
釧路の全道大会に参加したときもちょっと戸惑ったのですが、修学旅行のような気分  
なり、みず ま ころ がくせいきぶん たの わか きも ひと たいわ たの  
水が増すように心が学生気分でした。若い気持ちになり、人との対話も楽  
しんで、しゃかいべんきょう で き じぶん ちょうせん さいこう がっこう かよ まえ  
社会勉強も出来、自分らしく挑戦できるのが最高です。だから学校に通って前  
すす  
進む。

このようにたいけん できることがありがたいです。ほんとう めぐ こと かんしや えんそく  
このように体験できることがありがたいです。本当に恵まれている事に感謝です。遠足も  
あおぞら もと しよくぶつ で あ はななど べんとう とき など  
青空の下で、いろんな植物に出会い花等ながめて。お弁当の時はみんなでのおしゃべり等、  
わら ねんまつ たの かい うた すんげき  
笑いがはじける。年末にはお楽しみ会もあります。歌ったり寸劇などやりとてもにぎやかで  
す。これもスタッフのかたがた で あ せんせいがた ちからぞ ほんとう  
す。これもスタッフの方々との出会いと先生方のお力添えです。本当にありがとうございました。

「まがりみち ある 歩きつづけて はな さ  
花が咲く」

やまや りやう た さつぽろえんゆうじゅく  
山谷 亮太 (札幌遠友塾 スタッフ)

こんばんは。さつぽろえんゆうじゅく しゅうねん  
こんばんは。札幌遠友塾 25 周年おめでとうございます。

わたし えんゆうじゅく げつほどけいか わたしじしん ゆうじん しやうかい えんゆう  
私が遠友塾のスタッフになってから4ヶ月程経過しました。私自身、友人の紹介で遠友

塾のスタッフになることを決心しましたが、母校が向陵中学校と言うこともあり以前からこの夜間学校のことを知っていました。

そんな私がこの遠友塾に来て驚いたことが二つあります。一つ目は受講生さんの勉強へのやる気です。受講生さんは18歳の私より人生の大先輩であるのに、意欲的に楽しく授業に参加されていて毎週刺激を受けています。さらに皆さんの姿勢にも驚きました。

私は個別指導のバイトで中学生を教えているのですが、机に寝そべったり、悪い姿勢で椅子に座るなど集中力が欠けているように思えます。しかし受講生さんは美しい姿勢で座っています。それは意欲的に集中して勉強に臨んでいるということです。正しい姿勢の人たちの中に居ると我々も緊張感を持つことができます。緊張感を持って勉強することは例えば、数学の計算ミスが減るなど良いことが沢山あります。受講生の皆さん、これからも私と緊張感を持ちつつも楽しく勉強していきましょう。二つ目の驚いたことはスタッフの皆さんのやる気です。私はスタッフの皆さんを心から尊敬しています。

私は社会の授業で「5分授業」というものをやり、マスコミの報道の自由についてお話をしました。そこで私は伝える事の難しさに直面しました。もちろん今も悩んでいます。そんな時にある社会科の先生に「何か一つでも伝えれば十分だ」と言われ、心がすごく楽になりました。他のスタッフの皆さんの授業は「受講生さんに楽しい授業を」という思いが詰まった素晴らしいものです。そして授業後のミーティングではもっといい授業をという思いから、時には強い口調で言い争うこともあります。これはやる気の表れなのでいいことだと思います。これからもそれぞれのやる気をぶつけ合い、いい授業を作り上げましょう。

遠友塾のスタッフとなり私は教育の大切さに興味を持ちました。現在、世界には教育を十分に受けられない子ども達があります。それどころか、生きることすらままならない子どもが沢山います。人間とは教育を受けることで学ぶ楽しさを知ります。

そこで私の決心として十分な教育を受けられない子ども達を少しでも減らす手助けをしたいです。そしていつかはこの国を背負う人間になります。

なかにいだ　みのる　くしろ　がくしゅうしゃ  
中新井田　稔（釧路「くるかい」学習者）

みな　くしろ　じしゅ　やかんちゅうがく　がくしゅうしゃ　なかに　いだ　みのる  
皆さん、こんにちは。釧路自主夜間中学「くるかい」学習者、中新井田稔です。よろ  
しくお願ひします。大勢の前で話す事は不慣れなため、お聞き苦しい点があるかもしれませ  
んがご了承ください。それでは始めさせていただきます。

まいとしほんや　はる　おとず　とも　こうれい　えいご　なら  
毎年本屋さんには、春の訪れと共にNHK恒例の英語テキストがたくさん並びます。と  
りわけ英会話に興味がある私は年間を通して「今年こそ、ラジオ英会話を聞き続けよう！」  
と決心してテキストを買うのですが、ゴールデンウィークが過ぎ去った頃には、だんだん手  
ごたえも怪しくなり、「くるかい」に入学するまで何度も何度も途中で投げ出したものです。  
「やはり独学で英語を勉強し続けるのには無理があるのかな～？」とか、「みんなと共に  
勉強すれば意外と続くのかもしれないから、民間の英会話スクールにでも通学しようかな  
～～？でも～長続きしなかったらお金も時間も、結局無駄になるだけだし～・・・」な  
どと、そういった言い訳をし、結局自分自身悶々としながら過ごしておりました。

やさき　こうみんかんなど　こうきょうしせつ　た　よ　じしゅ　やかんちゅうがく　は  
そんな矢先、公民館等の公共施設に立ち寄ると「自主夜間中学くるかい」と貼られたポ  
スターに目が止まりました。国語、算数、英語などを夜に皆で学習しているサークル内容の  
事が書かれていました。社会人になってからも一度最初から学習したいという動機にか  
られた方ならご存知かもしれませんが、日常英会話をマスターするなら、中学で習う英語  
内容を何回も何回も繰り返し総復習するのが近道と私も聞いていたので、自主夜間中学  
「くるかい」の門を勇気を出してくぐりました。見学させてもらっている間、私には誰一人  
知り合いもいなかったのも、一人で自習していましたが、大学生の方や、仕事を終えた後  
勉強を教えている支援スタッフの方たちが、私に気さくに話しかけてくれたおかげ  
で、すっかり「くるかい」の雰囲気打ち解け入学が決まり、英語学習グループのメンバ  
ーの一員として現在もこうして「くるかい」にお世話になっております。「くるかい」では、  
ねんぱいしゃ　じゃくねんしゃ　せいべつ　と　わ　き　たの　わたし　なかま　ひとり　う　い  
年配者、若年者、性別など問わず和気あいあい楽しく私を仲間の一人として受け入れてく  
れました。「くるかい」に入学して4年が経過しますが、おかげさまで1日15分程度のラ  
ジオ英会話も毎日欠かさず聞く習慣を身につける事が出来ました。これもひとえに「くる  
かい」のおかげです。ちなみに、一緒に英語を学習する仲間の一人には、私の父親くらい  
の年齢の方が居りますが、毎週欠かさずに「くるかい」に参加しています。その継続力、

こうがくしん あたま さ おも いっしょ まな ほこ おも そんけい  
向学心には頭が下がる思いで、一緒に学ぶことを誇りに思っていますし、尊敬しており  
ます。そして、えいご おし せんせい たの そうだん まじ じゅぎょう すす  
英語を教えてくれる先生も楽しく相談したりユーモアを交えながら授業を進  
めてくださるので、わたしじしんいしゆく ふたん まいかいさんか たの  
私自身萎縮したり負担にならず毎回参加するのを楽しみにしています。  
また、ひごろ など しゅつせき とき じしゆてき べんきょう  
日頃のストレス等で出席できなかった時も「くるかい」は、自主的に「勉強したい！」  
といういよく 意欲があれば、いつでもきもちよく う い いろいろ しごと  
意欲があれば、いつでも気持ちよく受け入れてくれるところです。色々な仕事などで  
いそが とちゆう なかまたち ふたたび  
忙しく途中サボりがちになっても、仲間達がいてくれるので、再び「くるかい」にくるか  
い？と、こえ か しょうがい とお がくしゅう わたし つよ じっかん  
やさしく声を掛けてくれる生涯を通した学習サークルだと私は強く実感してい  
ます。これからとも べんきょう じぶんじしん せいちょう い  
も「くるかい」の皆さんと共に勉強して、自分自身も成長して行けたら  
いなとおも と思っています。

せいちょう  
ご清聴ありがとうございました。

しょうじ はるみ はこだてえんゆうじゅくふくだいひょう  
東海林 晴美 (函館遠友塾 副代表)

こんにちは。はこだて き しょうじはるみ だ はこだてえんゆうじゅく  
こんにちは。函館から来ました東海林晴美です。(ネームタグを出し) これ、函館遠友塾  
のネームタグです。スタッフもせいと 生徒さんもするんです。ほんらい いまにしだいひょう ほうこく  
本来ならば今西代表がここで報告す  
るよてい 予定だったんですが、しごと かんけいじょうごう こ  
仕事の関係上都合がつかず来られなくなりましたので、代わりに  
わたし みな はこだてえんゆうじゅく かつどう ほうこく ほんだい はい まえ さつぽろえんゆうじゅく  
私が皆さんに函館遠友塾の活動を報告させていただきます。本題に入る前に、札幌遠友塾  
25 周年しゅうねん おめでとうございます。けいぞく ちから はこだて おも  
継続は力ですよね。函館もそうなればいいなと思ってい  
ます。きょう はこだて めい じゅくせい めい ごうけい めい さんか さくねん  
今日は函館からスタッフ5名と塾生さん2名、合計7名で参加しています。昨年  
えんゆうじゅくぜんどうたいかい えんろ はこだて くだ ぜ ひ  
遠友塾全道大会では、遠路はるばる函館にいらして下さってありがとうございました。是非  
またいらしてくだ 下さい。

はこだて かつどう しょうかい はこだてえんゆうじゅく くしろ おな へいせい ねん  
それでは函館の活動の紹介をさせていただきます。函館遠友塾は釧路と同じ平成20年  
はじ に始まりましたのでねんめ 7年目になりました。そつぎょうせい にん がつ にち  
卒業生は67人です。そして8月19日から2  
がつき はじ 学期が始まりました。みな いっしょうけんめいがんば き じゅくせい へ  
皆さん一生懸命頑張ってきて来てくれています。だんだん塾生が減って  
きていますが、ちようこうせい くわ けつこうかつき じゅぎょう てんかい じゅぎょうないよう ほか  
聴講生を加えて結構活気のある授業が展開されています。授業内容は他と  
ほと いっしょ こくご すうがく りか しゃかい えいご さくねん ほしゅうじゅぎょう はじ  
殆んど一緒に国語、数学、理科、社会、そして英語です。昨年から補習授業も始めました。  
ちよっと じゅぎょう い とくべつ じかん もう ほしゅうじゅぎょう かたち  
授業について行けないということもあり特別に時間を設けて補習授業の形をと  
っています。まえ りか じゅぎょう ふ ほ せいと こえ あ  
この前「理科の授業を増やして欲しい」という生徒さんの声が上がりました

が、決まった時間の中で授業時間確保するのに「いや国語を・・・いやいや英語を増やして欲しい」とスタッフからあるんですけれども、限られた時間内で一生懸命やっています。毎月1回スタッフ会議の中で塾生さんの反応など皆で共通認識するようにしています。

行事ですが春、秋の遠足・クリスマス会・卒業式・入学式が大きな行事です。今年春の遠足は初めて平日に行ないました。今まで日曜日開催だったのですが。なんと、函館市議会見学(議会の開催が無く議場のみの見学でしたが)と日銀函館支店に見学に行きました。平日でしたが生徒さんもスタッフも多く参加し、市議会議場では議長の椅子に座ってみたり、日本銀行では1億円の束を持ってみたいりして、なかなか普段出来ない経験が出来たのではないかと思います。一生懸命勉強した後は、北海道初の洋食レストランで有名な老舗五島軒で、真っ白な糊のパリッと効いたテーブルクロスに並んだ、見た目にも素晴らしい洋食を皆で楽しんで、本当に楽しい1日でした。これは本当にいろいろ担当して下さったスタッフと生徒さんの参加で盛り上がったんだと思います。

こういう活動をしているのですが、抱える問題としてあるのは、生徒数の減少というものもあるのですが、これだけではなく、スタッフも高齢化してしまっていて、国語科は2名のスタッフで3学年教えている現状です。スタッフの確保も課題かと思っています。

本来ならば塾生さんからの体験発表も、と思ったのですが、初めての場所でちょっと難しいということでお名前だけ紹介します。(会場に居られる)2年生の星川セツさん、1年生の常本博子さんです。

最後に、今年の春に文集をつくりましてタイトルは「I'm Here」です。ドラマの主題歌もあるんですがこちらの方が早いです。「I'm Here」は英語の時間に出席を取るときに、生徒さんがいっぱい居るわけではないので誰が来ているのかは分るのですが、名前を言ったときに「I'm Here」 私はここにいますよ という風に英語を話す授業なんです。そういう風な授業なんですが、文集発行者がタイトルに採用してくれました。というような活動なんですが、函館も札幌のように長く続けられるといいなと思っています。簡単ですがこれで函館からの報告を終わります。